

カーネーションの計画的生産に関する研究(第4報)

開花期および切花品質におよぼす長日期間,

定植時期および仕立て法の影響

堀川法隆・佐藤義機

この実験は、香川県下の冬切り栽培体系に電照技術を導入する目的で、'レナー'を用いて長日期間、定植時期および仕立て法の影響を1番花と2番花の開花期および切花品質について検討した。

1. 1番花について

1番花は70日以上の中日期間で開花促進されたが、8月定植で特に顕著に表われた。しかし、無整枝の場合、いずれも長日期間による差は認められず、ほとんど効果がなかった。

開花節位は、高温・光強度期を経過する6月定植において、着花節位はやや高くなったが、7月定植、8月定植では、長日期間が長くなる程着花節位は低くなり、定植時期、仕立て法による差は認められなかった。

切花の茎長は、6月定植を除いて、いずれの仕立て法でも長日期間が短くなる程茎長は長くなった。節数は6月定植で長日期間に関係なく多かったが、他は差がなかった。生体重は定植時期に影響は強く受けた。

2. 2次分枝の発生割合

2次分枝の発生は、定植時期と仕立て法によって影響を強く受け、7月定植において、また、仕立て数を多くすると2次分枝の発生が抑えられた。

3. 2番花・3番花について

2番花以降の到花日数は、1番花の切花時に発生している2次分枝の生育状態と、4月以降の気候条件に影響され、特に、7月定植においてこれらの影響が顕著に表われた。

切花品質は定植時期、長日期間および仕立て法による差は認められなかった。

1株当たりの切花本数は、2本仕立てで2次分枝の発生が少ない7月定植でやや少なかったが、3本仕立てでは長日期間が長い程切花本数も増加した。無整枝は6月定植と8月定植で長日期間が長い程切花本数は少なく、7月定植はこの逆の結果となった。